

金田みたて海岸 潮干狩り場の観察

報告者：大野幸正（生き生き東京湾研究会）

日時：2025年4月28日（月）9：30～12：30 干潮時刻 11：03 天気 曇

場所：金田みたて海岸 潮干狩り場（金田漁業協同組合）

小櫃川に近いホテル三日月地先の潮干狩り場（金田海岸潮干狩場）でアサリが湧いているとの情報がありました。残念ながら今年は営業していなかったために、近くで営業をしている「金田みたて海岸 潮干狩り場」に観察に行くこととしました。潮干狩り料金は、2200円（持ち帰りは2kgまで）です。



図 金田みたて海岸 潮干狩り場の位置案内と観察範囲

潮干狩場では、お客さんが岸に近い干出した範囲で潮干狩りをしていました。



この日は大潮期で、干潮時の推算潮位は-2cm（気象庁、木更津）でしたが、干出したのは護岸から400m程度まででした。ホテル三日月地先の金田海岸潮干狩場のほうが、沖まで干出するようです。



潮干狩場として、アサリを撒いています。撒いている範囲は分かりませんでしたが、北東側には網柵が岸沖方向にありました。お客の漁獲物は、アサリに次いでシオフキガイが多く見られました。



貝類等の観察は、以下の図に示す8箇所です。観察位置の5番はお客の多い場所でした。そこ以外の観察位置は、なるべく潮干狩り客が少ない場所を選定しました。



図 貝類等の観察位置 (8箇所)

当日の潮の引き具合は、東京港波浪観測所のデータでみると推算値より引いたようです。

観測期間：2025年04月25日～2025年05月01日

観測地点：東京港波浪観測所

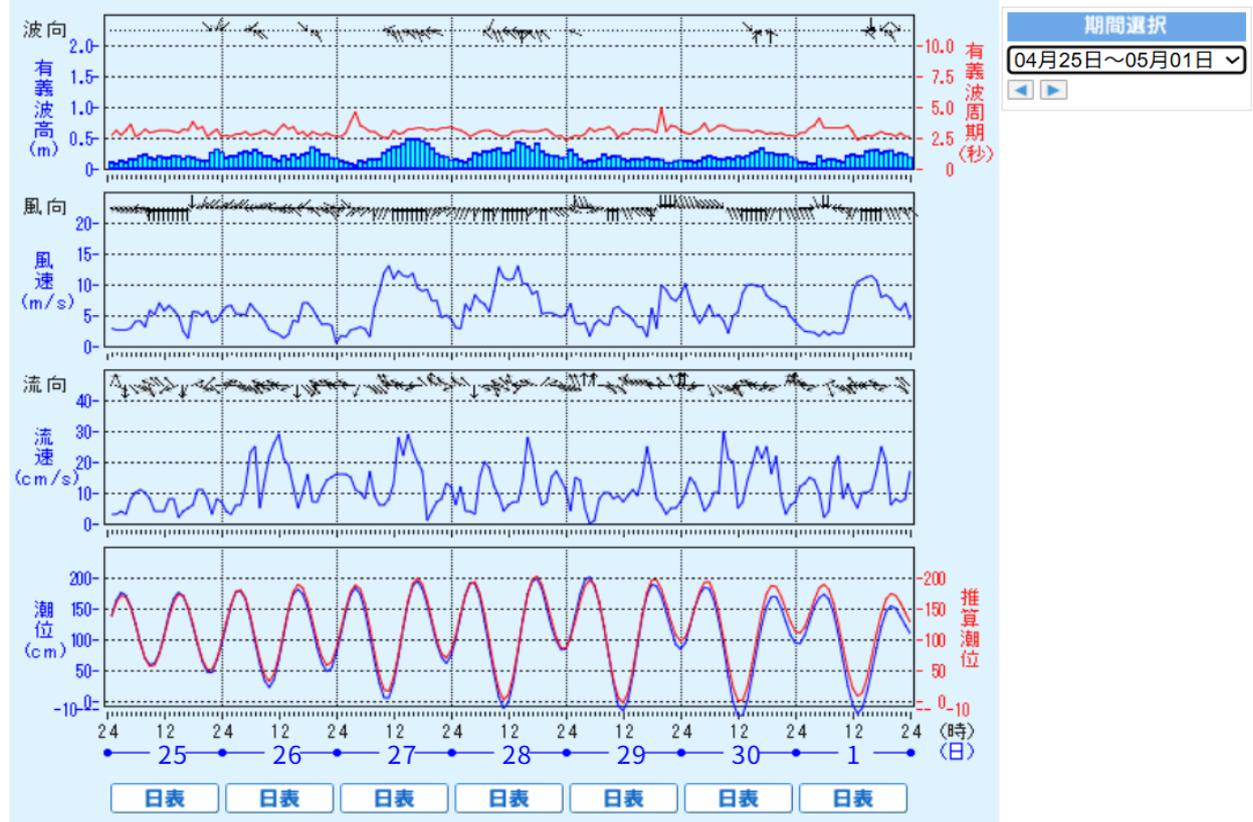


図 当日の実測潮位 (東京港波浪観測所)

観察位置では、熊手、ステンレス製ふるい等を用いて底生動物の状況を確認しました。

- ・二枚貝では、アサリ、シオフキガイ、ホンビノスガイ、バカガイを確認。
- ・巻貝では、ウミニナ類、キサゴ類、アラムシロガイを確認。
- ・稚貝（数mm）は、巻貝と二枚貝を確認したが、アサリは未確認。

■ 観察位置 1：護岸のすぐ下の砂地。シオフキガイを確認。



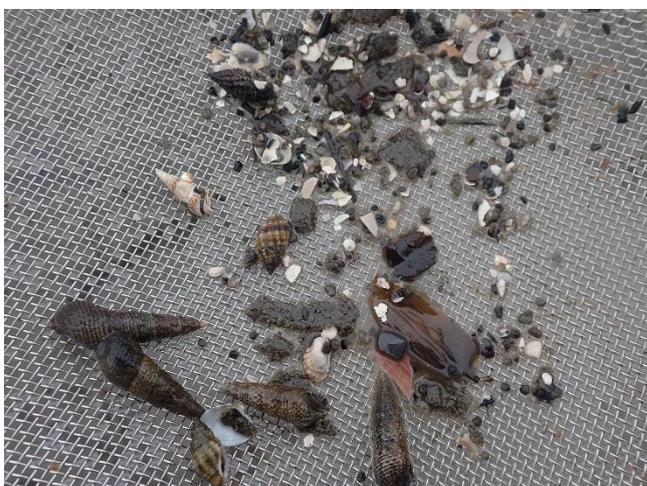
■ 観察位置 2：護岸から沖へ約 30m、砂地。アサリとシオフキガイ。アサリ稚貝は未確認。



■ 観察位置 3：潮干狩場の東側の網柵際、岸（満潮時水際線）から 150m、砂地。貝類では、ウミニナを多く確認。稚貝は、巻貝の稚貝を確認。



■ 観察位置 4：潮干狩場の東側の網柵際、岸（満潮時水際線）から50m、砂地。貝類はウミニナ、アラムシロガイを確認。稚貝は、巻貝と二枚貝の稚貝を確認。



■ 観察位置 5：潮干狩り客が多い位置で、砂地。アサリ多し。ホンビノスガイも確認。甲殻類のニホンスナモグリを確認。

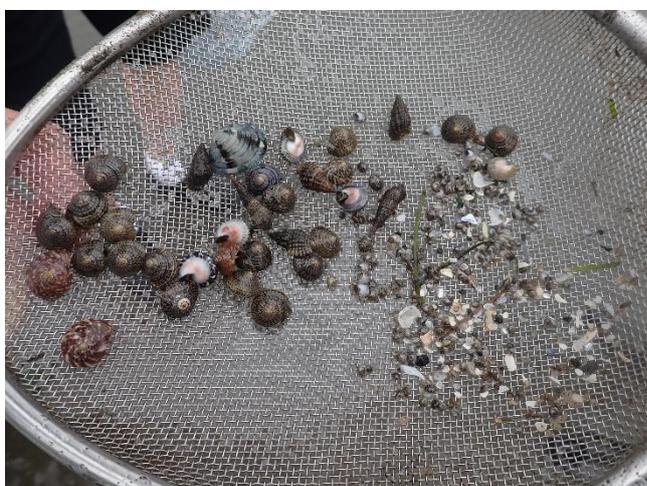




■ 観察位置 6：護岸際から 135m 沖合、砂地。コアマモ場あり。アサリ、シオフキガイ、ウミニナ類、キサゴ類を確認。



- 観察位置 7：護岸から 185m 位沖合、砂地。コアマモ場あり。アサリ、シオフキガイ、バカガイ、キサゴ類、ウミニナ類、アラムシロガイを確認。稚貝は、巻貝を多く確認。



- 観察位置 8：護岸から 290m 位沖合、砂地。コアマモ場あり。アサリ、シオフキガイ、キサゴ類、ウミニナ類、アラムシロガイを確認。稚貝は、稚貝は巻貝と二枚貝を確認、アサリは未確認。アサリの殻の色合いは、濃淡が明確で地で湧いたアサリの柄と見られた。コアマモ場にはウミニナ類が多く見られた。シオフキガイがアサリよりも多く確認された場所もあった。





漁獲物として持ち帰ったのはアサリのみで、追加料金がかからない 2kg 以内でした。



下の写真の左側：地のアサリと思われる色柄

右側：地のアサリとは異なると思われる色柄



以上です。